

◆ 質疑応答 ◆

野澤) 討議 1 に関して、「プロジェクトマネジメントにおいて、出口イメージが大切だというお話がありました。その中で応用研究や実用化までのスケジュール感、5年先、10年先などは重要かと思いますが、昨今のIoTとかICT技術が日々進歩していく中で、異分野連携を行う際のスケジュールの設定の考え方など、ご教示いただきたいと思います。」という質問です。若原さん、ご意見を頂けますか？

若原) 確かにICTの技術はテンポが速いですが、もう一つ言えることはバラつきが大きい可能性があります。その中で本当に使えるパートナーを見極めることとタイム設定はリンクしていると思う。だから「この技術をあと何年で市場化できるのか」という目利きの判断をプロマネ側が持っていることが重要です。ヒューマンリソースも少ない中で、筋は良いが凄く時間が掛かるIT系の技術もあれば、どんどん変わっていく技術もあります。その辺を見極める力がプロマネには必要だと思います。

バックキャストという言葉が先ほどから出ていましたが、大学の先生とか研究者は基本的にバックキャストが苦手だと思います。なぜかというフォアキャストで、基本的に過去の文献から自分の研究の新しさを位置付けていくからです。バックキャストは本当の未来にあるものから考えなければならないので、そういう能力に長けた人間を集めてくるのが一つの考え方です。時間設定はそれらに依存します。

それともう一つ、TRLの段階1~9を全て同じ人がやる必要は無いと思います。基礎研究は基礎研究であれば良く、正確なボタンタッチすることが重要です。ゼネコンの研究は、最終的に現場の工事長が基本的にプロマネをやります。

一律の答えを見つけ出すよりも、本間さんの意見で「やってみて修正していく」のが重要だと思います。

野澤) 討議 3 に関して、「連携相手の選定について、RAIMSでは参加企業をどのように選定しているのでしょうか？一般公募であれば、ベンチャーも参入しやすく、もっと違った展開も考えられたでしょうか？」という質問を頂きました。本間さん、ご意見を頂けますか？

本間) 私はRAIMSの設立には関わっていないのですが、公募を掛けて希望する組織は全て参加してもらったと聞いています。色んな企業に参加いただいて、いろんな議論をするのが良いだろうと考えていたと思います。また、ガイドラインを充実するために、他のSIP参加企業にも声を掛けて入ってもらいました。

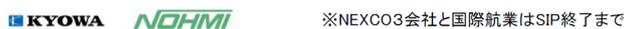
モニタリングシステム技術研究組合

発起人



理事長
早稲田大学 名誉教授
依田 照彦

参加企業



追加企業

(ガイドライン制作に参加した企業のうち、SIP終了後に加入)



RAIMS Research Association for Infrastructure Monitoring System

設問：土木内外の連携において重要といますか？

3:特に重要, 2:重要, 1:どちらかといえば重要, 0:重要ではない, N:該当しない, 分からない

■全体 ■土木内 ■土木外 ■土木内外

